

船井情報科学振興財団 留学生レポート

2017年6月

澤田 真行

四年目が終わろうとしています。この夏は帰国せず、米国にこもっていようと考えていたのですが、先日と来月に結婚式ということで結局飛行機に乗ることになりました。最近ではニューヘイブンにも慣れ親しんできたため、飛行機の時間と入国審査の煩わしさが以前より一層しんどく感じるようになりました、Yale 経済学部の澤田です。今回もまた都合が合わず夏の交流会に参加できませんが、いらっしゃる皆さまが東海岸を満喫なさることを祈っております。

■生活について 先日、仲の良い同級生が本国で結婚するというので、初めてスイスに行ってみてまいりました。夏だろうと涼しいのではないかと考えていたのですが予想は大外れで初日のジュネーブは酷暑というべき暑さでした。何よりもエアコンがどうやらほとんど普及していないようで、屋内が屋外と変わらず暑いことがしんどさに拍車をかけておりました。スイスの物価が高いことは事前に知っておりましたが、いざトールサイズのアイスコーヒーが5.5フラン(およそ5.7ドル)するのを目にするとやはり尻込みします。おおよそ日用品が米国の1.5から2倍程度の物価という印象でした。

結婚式のついでに Jungfrau という山にも立ち寄り、充実した四日間の旅行だったのですが、ニューヨークの入国審査で四年目で初めていわゆる別室行きを体験しました。普段通りに指紋の取得、写真の撮影と済ませたあと、入国の目的を尋ねられただけで「ついてこい」と別室行きの指示。改善されないデータの不備から毎回別室行きになるという同行していた同級生曰く、彼は毎回理由を説明されるとのこと。私に関しては説明は一切なく、別室に行っても係員がしばらくパソコンを操作していたかと思えば通常通りの手続きを行なってそのまま入国が許可されました。新政権になってから初めてで、ヨーロッパからの入国だったから念のため、ということでしょうか？新政権になってから似たような経験をなさった方いらっしゃいましたらぜひお話を伺いたいです。純粋な興味として、追加審査というのは何をしているのでしょうかね。フェイスブックでも検索しているのでしょうか。

四年も経つともはやニューヘイブンについて語ることも尽きましたが、毎年何かしらの変化はあります。今年も新しく三人の日本人が経済学部にアクセプトされ、うち二人の日本人が夏明けからいらっしゃるそうです。こうして順調にニューヘイブンの日本人関係者が増えていくのは私生活でも研究の相談をさせていただく上でも嬉しいことですが、同時にそろそろ追い出される時期であることを実感するため寂しくもあります。

■研究の進捗について 今学期は変わらず博論の執筆に注力しておりました。現在は、賃金などの興味のあるアウトカムに対する政策効果や性別/人種による差などがどのような要因によって決定づけられるかを分析する手法の開発を行なっています。

Oaxaca(1973) 及び Blinder (1973) に始まり、労働経済学及び計量経済学において賃

金などのアウトカムの集団間の差が集団間で差のある変数を持ってどれだけ説明できるかという分析が行われてきました。近年でも DiNardo, Fortin and Lemieux (1996) や Chernozhukov, Fernández-Val and Merry (2013) などが分布関数の差の分析へと拡張するなど、新たな推定手法が開発されてきましたが、それらの手法で提示された統計量の因果としての解釈については十分な研究がなされていませんでした。一方で、因果推論の分野ではそのような分析は Mediation analysis と呼ばれ、Imai, Keele and Yamamoto (2010) などを中心に進められており、「アウトカムの要因が実際には生じなかった反実仮想として与えられていたら、アウトカムはどれほど違っていたか」という因果としての解釈を与える条件及び推定手法が提示されていました。しかしながら、これらの先行研究で用いられている仮定はアウトカムの決定要因が外生であること、すなわちアウトカムの観察されない決定要因に対して独立に決定されていること、によって正当化されるものの、それは決して容易に承服できる仮定ではありませんでした。私の研究ではそのような外生性に依存しない代替的な仮定を提示し、その仮定に基づく代替的な推定手法を提示することになります。

あわせて、今期は同大学の伊神教授らとの中国企業の民営化に関する共同研究が進展し、以下のようにワーキングペーパーとして公開されました。私は主に推定を担当しております。

https://papers.ssrn.com/sol3/papers.cfm?abstract_id=2695933

ワーキングペーパー公開後このバージョンから新たな手法を追加したため、現在全体の推定をやり直しているところですが、こちらも近いうちにひと段落つけることができそうです。

■終わりに 今年こそは、と楽しみにしていたボストンですが、またもや参加できず大変残念に思います。代わりに、というわけではありませんでしたが、先月ボストンに日帰りで妻と旅行してまいりました。Quincy Market でクラムチャウダーを食べましたが、想像以上に美味しいです。どうぞみなさん私の分まで楽しんでいただければと思います。

■参考文献 Blinder, A. S. (1973): “Wage Discrimination: Reduced Form and Structural Estimates,” *Journal of Human Resources*, 8, 436-455.

Chernozhukov, V, I. Fernández-Val, and B. Melly (2013) “Inference on Counterfactual Distributions”, *Econometrica*, Vol. 81, No. 6, 2205-2268.

DiNardo, J., N. M. Fortin, and T. Lemieux (1996): “Labor Market Institutions and the Distribution of Wages, 1973-1992: A Semiparametric Approach,” *Econometrica*, 64, 1001-1004.

Oaxaca, R. (1973), “Male-Female Wage Differentials in Urban Labor Markets”, *International Economic Review*, Vol. 14, No. 3.

Imai, K., L. Keele and T. Yamamoto (2010) “Identification, Inference and Sensitivity Analysis for Causal Mediation Analysis”, *Statistical Science*, Vol. 25, No. 1, 51-71.

澤田 真行